

日時：2013（平成 25）年 5 月 31 日（金）10:30～11:00

場所：福岡県立ももち文化センター（ももちパレス）会議室 2

出席者：佐野 司，小林 馨，中山英二，村上秀明，林 孝文（敬称略）

報告事項：

1．公益財団法人日本医療機能評価機構主催・第 1 回診療ガイドライン作成ワークショップ（2013 年 5 月 25 日）について

林委員長より、標記ワークショップ参加の報告があった。Minds では近日中に GRADE システムの方法論を取り入れ作成方法を進展させた「Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2013」を刊行する予定とのことであり、特に診断分野について記述が追記されるとのことであった。

審議事項

1．インプラントの画像診断 GL の改訂について

本 GL は「Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2007」に準じて作成しており、改訂にあたって従来の策定方法で行うか、最新のトレンドに移行するかについて意見交換を行った。その結果、「Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2013」刊行を見据え、この機会に GRADE システムを導入する方針とし、ほかの GL 策定に先んじてまずこの GL の改訂作業から始めることとした。

2．顎関節症の画像診断 GL について

前回の本会議の方針通り、「Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2013」に準じて策定し直す方針とした。

3．各種病態における CBCT の画像診断 GL について

1) 埋伏下顎第三大臼歯の術前画像診断における歯科用コーンビーム CT の GL について

引き続きガイドラインとしての形態を整え、意見聴取を行う予定とした。

2) 変形性顎関節症における歯科用コーンビーム CT の GL について

本ガイドラインも「Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2013」に準じて策定する方針とした。

4．GL 委員を対象としたワークショップ開催について

「Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2013」に準じた策定方法を委員が習得するために、本年 11 月の臨床画像大会に日程に合わせて（無理であればその前後に）ワークショップを開催することとした。

5．GL に関するシンポジウムについて

GL の意義と EBM の重要性について学会内外に周知するために、様々な活動を行う必要があるため、田口先生をコーディネータとして、臨床画像大会あるいは総会等で、EBM と GL に関するシンポジウム開催を提案することとした。

6．GL の今後の策定作業について（継続）

・GRADE システム導入に伴い、策定委員の大幅増員につき、理事会へ協力要請を行うこととした。ただし当面の間、現委員は留任することが了承された。また、今後はさらに作業量と必要経費の増大が予想されることから、本委員会として学会にサポートを引き続き要請することとした。